



発行所 青山同窓会
新潟市関屋下川原町二
新 潟 高 校 内
印刷所 オリオン印刷機

「あいさつ」

新潟高等学校長 藤田久喜



青山同窓会の皆様 十八年間にわたり大変お世話になり、育てら

れた誇たなびく青山一名さえ耀う青陵に再び十四年振りに帰って参りました。誠に宿縁所生人生の不思議の感を深く味わってゐる次第でございます。

また、同窓各位、歴代の校長・教職員、PTAの方々のそのときどきの協力・協調の活動によって築かれて参りました本校の伝統・実績を思い、殊に極めて困難な諸情勢の中で適時適切に処して参られた塩崎前校長先生のご勇退の後を引き継ぐこととなり、その責任の重くかつ大なることを痛感いたしております。最後の御奉公に微力を尽したいとお願いいたしております。よろしく御協力、御支援をお願い申し上げます。

古人も天下の俊才を得てこれにたいと思ひます。

随想

い わ な

60回 上杉雅之
校 内 幹 事

▲山の古老からこんな話をきいたことがある。

ある時いわなを釣りにあけて腹を割いた。すると驚いたことに、沢山の砂利がでてきた。こりや、山は荒れだぞ。古老は釣竿をしまつて山を降りた。果せるかな、山は荒れ、水がでた。いわなは本能的に洪水を感じ、流されないようにと石を呑み、体重を重くするらしい。このいわなの本能に古老はいつも感心するといふのである。

▲山の古老からこんな話をきいたことがある。ある時いわなを釣りにあけて腹を割いた。すると驚いたことに、沢山の砂利がでてきた。こりや、山は荒れだぞ。古老は釣竿をしまつて山を降りた。果せるかな、山は荒れ、水がでた。いわなは本能的に洪水を感じ、流されないようにと石を呑み、体重を重くするらしい。このいわなの本能に古老はいつも感心するといふのである。

▲山の古老からこんな話をきいたことがある。ある時いわなを釣りにあけて腹を割いた。すると驚いたことに、沢山の砂利がでてきた。こりや、山は荒れだぞ。古老は釣竿をしまつて山を降りた。果せるかな、山は荒れ、水がでた。いわなは本能的に洪水を感じ、流されないようにと石を呑み、体重を重くするらしい。このいわなの本能に古老はいつも感心するといふのである。

▲約一四〇名の全日制生徒、その倍の数にも及ぶ通信制生徒が学ぶ本校舎が呑みこんでいる鉄骨は齋藤氏のお骨折の故とか、新潟地震を立派に耐えぬいている。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

▲82回卒の高山一郎君が、一年のアメリカ留学を終えて先月帰国した。彼は一年前、現役東京大学英文科からサンケイ・スカラシップを得て渡米。帰国談の第一声をきいた。アメリカの大学の奨学金で更に一年、「アメリカ研究」をテーマに踵を返すといふのである。この若い青年、日本の飛び魚は、ずつしりと重いものを蓄るために勇飛しようとしているのでしりと重いものを蓄えて、時に襲つてくるあらしを乗り切るか。われわれは、古老の語るいわなの本能に教えられてもよいのではないかと思ふのである。

教育することを第一の楽しみとしました。伝統とは、よりよき校風を培養するための土壌であります。我が新潟高校に関する限り、この土壌は誠に豊饒であり、その種子も原下の優秀の集りであります。私は、このような伝統校風の土壌のもとで多彩な種子を養い育て、新しい時代を招き得る本当の意味の近代的青年の教育が行われ、この学校の発展充実に努力を傾けたいと考えて居ります。

周知の通り現代人類社会は歴史にかつてなかつたような急速な変動、激動を経験しており、教育面でもなかなかむつかしい困難な問題をかかえて居ります。このことは本校とても例外ではないと思ひます。教育諸条件と校内体制の整備を図り、関係諸氏の期待に副いたいと思ひます。

どうか、同窓会の皆様方、ますます御元気で活躍いたぐと同時、後輩指導のため一臂の力を惜しまずご後援をお願い申し上げます。御挨拶いたします。

母校が生んだこの若き頭脳、高山君がずつしりと重いものを得て持ち帰り、学究活動不毛の日本の大学、アカデミズムの危機に対する警鐘を鳴らすよう、心からその御健闘を祈るものである。なお、高山君の住所は左記のとおりである。

58回 遠藤整治氏 市教育委員に

欠員中であつた市の教育委員に遠藤整治氏45才が、六月中会の承認を得て任命された。氏は昨年より母校のPTA副会長でもあり、今後の活躍が期待される。尚五名の教育委員の中では最年少である。

高山君 アメリカでもう一年

昨年九月サンケイ新聞奨学金を得て一年間アメリカに留学した高山一郎君が、今度は彼が学んだ、ベイツ・カレッジの奨学金を得て更に一年間、「アメリカ研究」をテーマに、来る九月留学生活にもどることにした。

AFS 奨学金で 本校三年生 二名渡米

毎年九月新学期から、アメリカの高校に留学する機会を与えているAFSに、本校では例年一名が選ばれてきたが、本年は男女各一名、小林真人君と小林純子さんがその栄冠を勝ち得てやがて渡米する。

昭和51年度新潟高等学校健児のスポーツ各分野に於ける活躍は大変めざましかった。特に、サッカー、バドミントン、フェンシング、レスリング、陸上、水泳の各部は総合体育大会、全国大会、団体等でよい成績を収めた。その戦績をもとに、昭和51年度新潟県高等学校スポーツ年間最優秀校、男子表彰校として新潟高校が賞状とトロフィーを受けた。

一年間、アメリカ人の家庭から高校に通学、勉強はもとより、日本文化の紹介もするといいわば「高校生外交官」としての役割もあつた。人物共に優秀な人物が毎年厳選されている。本校から二名の高校生外交官がくり出すのは珍しいことである。小林真人君はメイン州 c/o Mr. & Mrs. George A. Royal R. F. D. 1 Mercalf Rd. Winthrop, Maine U. S. A.

昭和48年度についで二度目の受賞である。同窓諸君の心からの拍手をいただきたいものである。スポーツには縁遠いと思われがちな母校の現役生徒諸君のこの快挙が更に翌年度も続よう、ぜひとも各クラブOB、青山同窓会先輩の御支援を切にお願いしたいものである。

小林純子さんはコネチカット州 c/o M. & Mrs. David F. Daubenspeck, 98 Rising Ridge Road Ridgefield CT 06877 U. S. A. アメリカを呑み込むつもりで、渡り楽しい充実した留学生生活を送りスケールの大きい人間になって帰国されることを祈るのである。なお両名の落着き先の住所にぜひ激励の手紙を返っていただきたいものです。

新日鉄社長に齋藤氏

母校出身、副社長から昇格

新日本製鉄は十八日夜死去した田坂輝敬社長の後任として、齋藤英四郎副社長を昇格させることを、英四郎副社長を昇格させることを、同夜内定した。二十日に臨時取締役会を開き、正式決定する。これは稲山嘉寛同社社長が永野重雄副社長を副社長に昇格させることと併せて、四十八年、富士製鉄との合併（四十五年）後の新日鉄副社長に就任した。六十六歳

国際人への期待

=== 母校後輩に与う ===

34回 齋藤英四郎
新日本製鉄社長

私は今年六十五歳になった。故郷を離れて四十数年経った訳である。附属小学校から中学、高専まで

校と二十年余りの青少年時代を過ごした新潟の想い出は昨日今日の様に鮮明に想い出される。自宅は医学町にあったが、信濃川の魚釣り（沈床と言われた石畳の突堤付近）砂浜でのぐみ探り、寄居浜の海水浴等々、幼時を育んでくれた想い出の川、想い出の山々は今でもよく夢にみる程身近である。白山浦の信濃川では鮭も獲れた。小学校時代の楽しい遠足は山ノ下公園から始まって高学年になると弥彦山詣りである。中学時代は信濃川の中州でボート大会が華やかにくり広げられる。野球も盛んだ。新潟商業とは宿敵で、勝つても負けても夕暮れの校舎へ帰つての、がいたん演説である。松の枝を焚いて悲憤慷慨、平素の憂き晴らしを兼ねての下級生いじめみたいなものだったが、若者の心意気高揚には大いに役立ったものであろう。

齋藤氏は新潟市の出身、大正十三年県立新潟師範付属小を出たあと旧制新潟中、旧制新潟高校で学び、東大に進んだ。

齋藤氏の社長就任について、親交のある新潟財界の、大御所、和田閑吉氏（73才）は「立派な人で社長になるのは時間の問題と思つていただけに地元としても大いに期待したい」と話している。和田氏によると昨年十月、新潟市にオープンした新潟地下街西堀口1サの建設

先生にはみな、あだ名がつけられ悪口も言ったが、師の影をふまげ、程なくとも先生に対する敬意は十分心得ていて、最近はやりの教師、等の言葉は使われなかつた。思い出を綴れば限らない。君知事は私と小学校からの同級生であった。私と違つて新潟にずっと過して来られたせい私ほどのノスタルジック的感懐はないらしい。実にふるさとは遠くにあつて想うものなのかも知れない。儲て、むつかしい論議を述べたとは思わないが、折角の機会なので、同窓会の皆さんに、私が四十年間携つて来た鉄鋼業の経験から一言申し上げたい。それは今後日本の青少年の歩むべき未来像は国際人になり切ること、家庭教育も学校教育も又社会教育も凡ての在り方が国際人指向にふみ切ることだと言いたいのである。

にあつても、地下街をささえる鉄骨について、新潟商工会議所の等々力英男会頭、伊藤弥太郎副会頭が齋藤氏のところへ出向き、助力を受けたという。

また、君知事は齋藤氏と小学、中学時代を通じての同級生。交際しているが県政面でも副知事は、新潟東港がまだ海のものとも山のものともわからなかつたとき、当時の八幡製鉄としていち早く東港進出を決めてくれたのも齋藤氏の助力があつたらだといふことがうかがえる。彼は郷里

日本の置かれている立場、無資源国で殆んど凡ての資源は輸入依存である。鉄鉱石、ボーキサイト、石油資源等は需要の1%の自給率である。その他棉花、羊毛等何れもこの程度である。こうした原料を輸入加工して生産の四〇パーセントは加工賃をかせぎながら輸出して、一億の人口が生活の糧を得つつある現実を直視しなくてはならない。昔言えれば仕立加工業みためのものである。）

のことに熱心だったがこれからもこ一番というときには地元のために努力してもらいたい」と期待している。

プロフィール

齋藤英四郎氏

朝日新聞「ひと」より

「めぐり合わせといったものを感じます」としんみり。田坂輝敬前社長の急死で、社員七万八千人の輸出を算入すると、実に生産量の半分以上の五千七〇〇以上というものが、世界各国、恐らく百数十ヶ国へ輸出され、こうした国々の人達が得意さん、需要家になつてくれている訳である。

鉄鋼業を例にとつてみよう。年間一億一千万トンの鋼塊を生産しているが、これは世界でソ連、米に次いで第二位、一、鉄鉱石一億五千万トン、石灰七千万トン、その他副原料数千トンの輸入等、世界数十ヶ国からの輸入である。しかも加工生産された鋼材の輸出量は、生産量の四〇パーセント近く、更にこの鋼材を、自動車、造船、機械等の形に加工されたもの

世界一の鉄鋼会社の総指揮をまかされることになった。



「田坂さんの下ではずっと裏方に徹して来た。まさか自分におハチが回つてくるとは夢にも思わなかつたので抱負めいたことを考え余裕ありません。永野重雄名

の要求を受け入れさせざるを得ない。更にはお互い腹を打ち明けられる親近感と親和感を相互に持てる間柄となることである。言つてみれば簡単の様であるが実際は大変難しい。第一に日本人は島国に育ち社交性が乏しい。言葉の障壁もある。風習も違ふ。生活信条も異なる。先方からみれば歴史的黃禍論的差別感がある。

「難局を切りぬけたい」前社長同様、この人も転職職、大学を出て三菱製鉄に入り六年目取引先の旧・日本製鉄に「石炭のわかる人」ということで引き抜かれ、当時の永野重雄購買部長の下で石炭係長としてごかれた。

戦后日本製鉄が八幡、富士に分離されたとき、八幡に残り、稲山氏と営業の名コンビを築いた。やう過ぎるほどの敏腕家」ともいわれた。合併会社につきものの派閥均衡人事で、在任期間の短かつた富士出身の田坂前社長の後は富士系が継ぐのでは、という観測もあつたが、八幡系とか富士系などの意識はもうなくなりましたよ」とツツなくかわす。

今日迄の日本外交の歴史を振り返つてみても自認せざるを得ない。世界は小さくなった。正味三十時間あれば地球は飛行機で一周出来る。時間的には昔の一つの県程度の広さである。三千数億の人口が沢山の言語と異なつた風習のルツボの中に生活している。現実には日本人がどう融け込んでゆき愛され信頼される人になつてゆくかは私共の時代から今後の青少年に託す大きな夢でもあり期待でもある。

故石井四一 郎君を偲んで

34回 北村 治作
北村 製作所社長

石井君は私にとって数多い友人の一人で、お互い間もなく七十才を迎える年配であり、「おい」「お前」と裸で話合える仲だった。

旧制新潟中二生からの同級生の中でも何となく親しみを増し、互いに励まし合う間柄だった。彼は田舎な常識人で、愛想もよく、野暮な言動は見た事のない、私とは全く対象の男だった。長い年月には、やはり、淋がたり、苦悩した事情もあった様だが、負けずには働いた男だ。達者者の時の彼はよく飲むし、周囲を遊ばせる、彼一流の駄洒落とユーモアを交えた話術は実に効妙で、

女の子にモデル独特の手法は到底私の生きている限り真似はできない。二人でどこかで一諸になら、どちらともなく夜道を歩きながら、遊び場所に足が向いたもので、彼の通人振りに接することを楽しかった。例えば、戦時中モーターとか電気ドリルなど私が入手至難の時、公道価格で直ぐ持って来てくれたもので、どうしてやりくりしたのかと尋ねても、笑っているだけだった。友達はいない。あ、何時までも忘れられない。選挙時の名参謀、町内の世話役、商工会議所の役員等、どれも立派な功績を挙げた若い頃の働き振りは立派で、石井らしいと感服したものだ。

晩年病床にあつて、一時重態の時もあり、もう駄目かと思つた時もあったが、不思議にも漸次快復に驚いたのだが、聞けば同期の友人で末広橋病院の内科部長木村元君が、実に情熱こめた親身の治療、手当のお蔭と、故人も、私も確信しており、やはり友人はいいものだ、意外に元気がなつて、この分だと私の方が先にあの世かと思つた事もあり、二人でどちらか先かなど話し合ったこともあつた。天命とはい、遂に彼が先に逝つたのはやはり淋しいものだ。「少年は失敗の年、壮年は競争の年、老年は後悔の年」とか諺にある様だ。彼にもまだやりたい仕事と遊びたい未練はあつた様に見受けられたことからあてはまる諺の様だ。併し残された会社、後継者はまことに立派であるので、その事など、安心して冥途に旅立ったことと思う。仲よしの友を失うことは淋しいものだ。

歯科治療に当りながら厭な顔一つせず、何時も冷静適切に会務を処理してくれました。あの文字通り温和なそして誠実な人柄は、あなたを知る総ての人達から敬愛され心服されたのは、当然のことでした。

こんな温厚篤実な一面、あなたはほんとうにナイーブな性格の持主でした。飲むことが好きでした。平素は静に盃を口にふくみ、乱れることもなく納々として語りかけ、酔う程にたくましくして人を引きつける魅力を身につけていました。酒の上では一生にたった一度の武勇伝ではないかと思いますが、こんな事がありました。たしか終戦間もない昭和廿三年頃の夏のクラス会で、当時は砂浜も広かつた閑屋浜で鯛鮎を引いた時でした。さっぱり獲物がが、らずムシヤクシヤも加わつて、焼酎、其の頃は清酒など手にはいらず殆んど酎（した）をコップであおり、今は亡き級友セキダン（閑屋の日那即ち故斎藤正一君）の邸で二次会をやるうという事になり、勇ましく乱入したあの時の若かりしあなたの面影は、今でも眼に焼きついてはなれません。

物静かな態度で患者に接していたあなたの温和な姿が、彷彿として眼の前に浮びます。けれどもも求めても届かぬ境界に去つてしまいました。想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

いった人となりの然らしむるところでしょう。宮尾君、安らかに眠つて下さい。合掌
五十二年六月十日
青山三八会同人

○教えられたるは馬鹿者揃い つも頭に残りやせぬ だがね
人の解析 教え給いし有難き 古稀にして三天センセの徳を知る
青山健児の頭のふるき
◎記憶、忘々、その一端
先生方の名言集
○ゴマザル——日用品とは、日曜に限つて用ゆる物也。
○主水——優勝旗は唯一つあり。而して唯一つに限る。
○しゃも——人民の畑を荒すな。
○カメレオン——オメラ、ワカ
イ先生ライジメンナヤ。
（三二会に寄せられた懐古記の一部を会員に披露、樋口責任）
◎忠五郎氏集取のアダ名集
馬、すけ、ツイツイ、くずまん、むじな、寛信、カバ、ナンボ、ヒトチビトチ、クロンポヒゲヂヂ、モデル、クモスケソーデル、象、アンパン
孫悟空、たこ
（古老同期わかりますか）

宮尾益夫君の

霊に捧ぐ



誰かが一度はどつしても辿らねばならぬ道とは申しながら、あなたにはなぜこんな早く行ってしまったのですか。今更言つても甲斐ない事ですが、同期の友に先だたれ、もう二度と会えないと思うと胸がしめつけられるような気がした。

想い起せば大正十五年四月、憧れの赤線入り、学帽を冠り、意気揚々と県立新潟中学校の校門をくぐり、昭和六年三月蛍の光で別れる迄の五年間、共に学び共に遊んだ懐かしい思い出は、今も尚走馬灯のように頭の中を駆け廻っています。

卒業后青山三八会を発足させましたが、あなたはその当初から同窓会も兼て、常任幹事として多忙

新中回顧
32回 渡辺忠五郎
◎三天先生
◎英吉利風の（末光貴校長）
◎「ゴマザル」又名「雲助校長」御本名は 名和長正公
○鈴木主水という侍が
教えたつもりが奇化台呈

想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

想い出は次から次へと続きますが、それはどれもこれも心温まるものばかりです。あなたの大らかな包容力で何事も和やかに処して

事務局よりお願い

青山同窓会の年会費は、一口千円です。できますれば、一口以上の払込みをいただければ幸いです。会報、諸会合の御案内を差し上げたいと存じます。
尚、会員各位の近況、消息、移動、異動、会報記事の感想、ライター（筆の立つ人）の情報等を母校内同窓会事務局宛お知らせ下さい。ご協力をお待ちしています。

遊方会雑誌に見る 端艇部の黄金時代

38回 近藤 圓

わが母校にボート部が生れて八十年余、その間に全国的に最高の成績を挙げ、いわゆる黄金時代を築いたのは昭和五年八月、琵琶湖の大津右場浜で開催された全国中等学校漕艇選手権大会であったようである。

この大会は歴史も古く、琵琶湖で漕ぐという事は、今の高校野球が甲子園に出場するくらいのおこがれを抱かせていた。

創設以来当大会は、中学、実業学校と師範学校の二部制であったが、この年から合併して一本化されたので、我々は年令において一才上の師範学校を相手にすることになり、これまでにない苦戦を強いられたのであった。

この大会の取材係として同行した私は、帰校後にこの年の遊方会雑誌に長文の遠征記を寄稿した。まことに幼稚の文章でいささか恥かしいのであるが、要所を抜萃して並べ、四十七年前の端艇部健闘の跡を御紹介してみたいと思う。

選手推戴

新学期開始せらるるや中村美雄を今季年度の主将と定め、主将以下六名を以て選手にあつ。即ち矢部直史舵手の重任を帯び、老練にして沈着なる河内直治整調の難関を守り、中村主将、大西正三の

や正に征途に上らんとす。はるかに頭を廻らせば過去幾年もの間我が練習を応援して下さいた弥彦の神蹟、我らと辛酸の月日を共にしたあの長江信濃、何れも我等を厭せざるはなない。

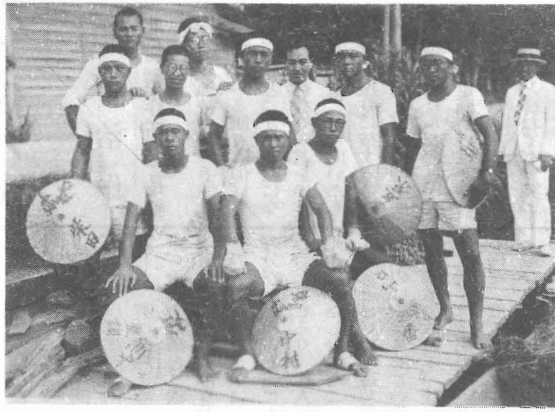
嗚呼 選手の感慨を何れも無量なる。我等の胸中唯復讐の二字あるのみ！
かくて新中一千の健児諸君、並に後援会員の熱烈なる応援、激励の嵐の湧き返る中に感涙とむせべる選手を乗せて、汽車は新潟駅を滑り出した。

征途にのぼる

七月二十六日栗ノ木川に於ける血と汗の一週間の合宿も終り、今

車中無事、翌二十七日正午、思ひ出多き大津に到着。大津市民の歓迎裡に合宿所福蔵寺本堂に入る。

昭和5年琵琶湖遠征クルー



前列左から、河内、中村、山口
後列柴田、石本省吾(35回)鈴木篤義(34回)笠原新二(34回)
大石、大瀧由七郎(27回)笠原、矢部、北村太市(29回)

敵状偵察

如何なる天のめぐり合せか、毎日雨で思う様に練習できない。故に全力を敵状偵察、即ちスパイに傾注した。何となれば他校は単にレースコースの練習のみ努め、戦士の健康などは全々眼中にないらしかったのである。故に我等はこれを利用して、巧に敵状即ち彼等の漕法、スタート、テストにおけるピッチ、コンスタントピッチ、スリット、及びトータルタイムなるものを偵察し、敵の作戦如何を窺見して、以て我等作戦の基礎とせんとするのである。而してこれは敵に発見されず、敵状を仔細に観察する事が最も重要なのである為に、我等は湖畔の家の二階を借用して、そこをスパイ本部と定めて、巧に且つ一つ残さず調べあげたのである。

決戦の時到来

明くれば八月三日、天気晴朗、波なくコンディション良好、観衆のざわめき、モーターの轟進、競漕気分は、刻一刻濃厚となつて行く。昨年の優勝校第一部長浜農業第一、滋賀師範奉公団の優勝旗返還式ありて後、遂に競漕の幕は切つて落された。言い換れば、今年から明治四十二年以来の第一部第二部制を廃し、一部二部併せられたのである。

緒戦悠々八艇身

第一回に於て、昨年の覇者長浜農業は今津中学に敗る。

「我、彼と会戦するの機を失したるをうらむ。我が選手の競漕は四回目、コースは第二、敵は京都一商及び徳島中学、何れも頭に白き美々しい帽子を頂き、ユニフォームは数々の色彩、数々の文字により飾られたる派手ないで立ち。我が新中はと見れば、白のユニフォームに白鉢巻、加ふるにスグ笠を以つてするあたり、全く関西クルーの派手な姿にくらべると一種の爽快味を覚ゆるのである。

スパイの功によつて彼等の腕は充分わかつている。何れ恐るるに足らぬもの、味方はラングで漕ぐ事に定む。これも後の試合の為に最初より全力を出すは損だからである。このレースは五分六秒のタイムを以て悠々八艇身を離す。

第二戦又々三艇身

八幡商業に高知商業が相手だ。これも難なく弊の心算である。三艇はスタートについた。切つた切つた。ピッチ八幡二十、高知三十二、新中予定通り廿五を確実に引き、一〇米までは接戦、敵はあせつた。もうしめたもの。三〇〇米で一艇身をはずす。我等ここからラングで行く。それでしかも五〇〇米のポールでは三艇身をはなす。そのままゴール、インタイム五分十秒。予定以上に弱いには驚いた。しかも八幡商業の如きは曰く、「新中には三艇身しか負けなかった。」と喜んでいてはなないか。負けて喜ぶ、何と痛快で

はないか、かくて第二選も無難に終る。

進退勝 九漕一艇身

午後四時、いよいよ準決勝戦だ。敵は今津中学、相手にとって不足はない。コースは今津一、新中二、二艇はスタートに着いた。号砲一発、スタートは切られた。ピッチ今津卅一、我廿九、敵のすべり良く、よく我と接戦し、五〇〇米に及ぶ。ここで我が力漕よくきき、抜くこと三艇身、敵奮起し、追及するも及ばず。我が力漕よく敵を残してゴールに入る。タイムは五分十四秒。次は唯決勝戦を待つのみである。

決勝戦は滋賀師範と

此の頃よりだんだん波が立ち初めた。湖上は殺気立った。波は不得手を我が選手、波知らぬ信濃川に鍛えた腕だ。果して決勝戦に実力を示し得るであろうか。実に危険極まる状況である。敵は地元の強豪、前年の二部優勝校滋賀師範奉公団である。選手は立ち上つた意気だけはあくまで盛である。前の三戦で相当へばつてゐる。ただ疲労を意気の下におし隠してゐるのである。残光散山の半面を輝かし、暮靄漸く湖上に立ちあそめた頃、スタートは切られた。栄ある決勝戦は開始された。勝敗は天のみが知る。然れども我が選手は意気は天に冲するばかり、必ずや勝利の栄冠は我が頭上に輝かん。敵の応援ものすこく奉公団勝たざれば、地元全敗とばかり、大小の幟を押

して立て、幾多の船に分乗し、コースの両側にびっしり立ち並んでわめいている。翻つて新中は見れば、先輩と大津市民の応援ありけれども応援は選手への責任感を強める手段にしかすぎないのだ。選手自身が強い責任を感じ、熱烈なる意気をもつておればそれでよいのだ。敵の応援を味方への応援と思えば良いのである。併し我が艇は何時も孤軍奮闘の概がある。

第一尺我遂に

我が選手は例に仍つてピッチ廿九、敵は三十四だ。敵のスタートは八〇〇米のポールに我は死漕を敢行した。敵疲労の色見え初めたに反し、我が頑張り物すく、強剛老練なる四番手中村は全漕手の頑張りの中核だった。為に我が艇はよくすべり、九〇〇米では並行になる。奉公団もさるもの、最後の力漕を行つた。又しても敵少し出た。差一尺を作る。此の時既に両艇はゴール間際。億万事務す、その瞬間号砲一発。差一尺我遂に勝たず。栄冠を譲らねばならなかつた。長蛇を逸した。覇業空しく露と消えたのだ。

我は悲しむ。中等学校としては超然たる漕法と実力を有しながらあの取るに足らぬ関西クルーに名をなされたるを。吾人は慨嘆の涙を流す。湖に佇立せば、想は遠く信濃河堤に立寄り、去りし日の辛酸の目を思い出させられるのであつた。

六月四日十三時、母校グラウンドに於て野球部に対し青山倶楽部(野球部OB会)よりのピッチングマシンの贈呈式が行われた。

贈呈決定に際し、多少の経過事情があつたため全OBに連絡する時間的余裕がなかつたが、清野会長・皆川幹事長を始めとして十数名のOBが出席、快晴のもと渡部氏司会で挙行され、会長・幹事長挨拶、教頭先生、清野事務局長、田村部長、学校側並に主将謝辞、続いて籠島・宮川両氏がOBとしての激励の言葉を贈る。

式后、OB連の試打が行われ、腕自慢の各氏が次々とバッターボックスに入る。各OB諸氏、何分にも初体験のことと当初はタイミングが合わず戸惑い気味であつたが、間もなくコツをつかみ、往年の勇姿を彷彿とさせる好打が飛び出す。全員、高校時代のバッティングのクセをそっくり。そこから夫々現役当時のいろんな場面が想い起される。最初、試打の希望者は二・三人のようであつたが、見ているうちに野球の虫が動き始めたか、順次、上衣をとり靴をはきかえ順番待ちが出る始末。小生にもと声がかつたが、他競技(ボクシング)へ転向した変り種、爾来バットとは無縁、恥をさらすのがオチである。さらぬ神に祟りなし。専ら観覧組へと逃避する。

その罰が否かは定かではないが今回は小生に本稿を受け持てと厳令された次第である。

全く便利なものが出来たものである。一回セットすれば同質の球

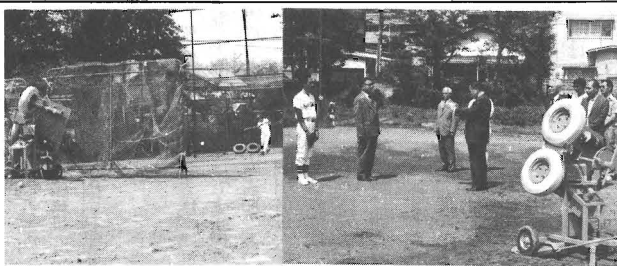
がこれでもかこれでもかと投げ込まれて来る。カーブ・スピード共に、セットすれば変幻自在である。従来のバッティング練習よりも効率のよい練習の出来るのは確かである。これでカーブに弱い打線も相当強化されるだろう。夏の大会は大いに期待したいものである。

ピッチングマシンに 58回 福島惣吉 想う

体得は飽くなき繰り返しのみによつて可能である。云うなれば動物的体得である。動物の体得という点に如何にも原始的・野蠻的・錯覚し易いが、スポーツの世界では科学する心がなくては真の動物的体得は成就しない。あらゆるスポーツの日本的・国際的代表選手はすべてコレである。動物的体得こそスポーツに於ける唯一の真実であり極意である。これを得てこそ無一になることが出来、如何なるゲームの展開にも対応出来るのである。

があることを忘れて欲しいのである。より科学的なものは何か。それは「勝負の結果」である。これほど科学的過程を経た「結果」は無いのである。勝負の世界に「運」

様では「ホンモノ」ではなく、ゲームの流れを自分で作ることで、若しも自分に不利な流れになつても、それをくい止め、自分に有利な流れに変える転機をつくるのが勝負の世界である。



であらゆる世界に優秀の格差が出てくるから愉快なのである。現役選手諸君、ピッチングマシンを大いに活用し、頑張つて下さい。基本の練習を積み重ね、動物的体得をして下さい。ゲームはそれの応用動作でしかないのです。期待します。最後に、OBの皆さんに御願

申し上げます。あらゆるスポーツに於て先輩の集まらない部は強くなりません。グラウンドに諸先輩の姿が絶えないならば必ずや現役選手諸君も良い戦績を残してくれるでしょう。先輩各位、御多忙とは存じますが折をみてグラウンドへ出て下さい。斯く云う小生もボクシングならば母校といわず全国どこでも、ひとりよがりながらもコー

Table with 2 columns: Name and Rank/Score. Includes '青山棋院 第一回競技会' results and '去る一月二十日、青山会館において、同窓生・現旧職員・生徒・生徒父兄の同好者による親睦囲碁大会が行われました。'

Table with 2 columns: Name and Rank/Score. Includes '全国高校囲碁選手権大会へ' and '既にテレビや新聞などで再々報道されましたので、ご存知の方も多いかと思いますが、去る五月十九日に行われた、全国高校囲碁選手権大会の新潟県大会で、本校が、団体戦・個人戦ともに優勝し、選出された。'

新潟高校通信制 管理棟の建設 来年一月に完成予定
青山会館を県に寄附採納することが決まり、過日その引き渡しが行われた。その見返りといつてもよいと思ふが、かねて鑑賞会長もその建設を強く望んでいた。通信制管理棟の建設が本決りとなり、現在、本校前庭、正門をはさんで反対側、会津八一碑脇に建築工事が来年一月の竣工予定で風間組の手で進められている。
完成後は一階(教室室、事務室) 二階(視聴覚室、理科教室、図書室) 三階(宿泊室、宿直室、生徒会室) 延べ七五九mの管理棟となり、通信制教育充実の中心としてその機能を発揮することが期待される。

三三一会古稀旅日記抄

32回 樋口 昇

五月十二、二日、小林力三兄の斡旋により妙高泊二日の同期会、生きているしるし」を各言葉、称して「三三古稀の会」

新潟駅発も旅のお目あて「」がくし号、幹事よりも早く来た斎藤英(彼のカメラは今珍品のタダ)波川(同期会皆勤、バラの名人)磯部長老(昔のキカン坊今は聖人)大塚会計幹事(銀行より確か、話中に漢語が入る)木村幹事(首に磁気ネックレスで若い)そして庶務幹事樋口(故勤兵衛大幹事の「後頼む」の一言で引継いだ因果)続いて新津で窓から探している

と廻り、残りの人を心配する。妙高高原駅着。いたいた先着の東京方面勢、常山(東京代表、流名の酒豪も心臓病で禁酒、大事にしてくれ)沢山(マラソンの堤)今でも新潟-東京の連絡係。そして毎年香港総会で記念品のアタル仁徳者、曾我画伯(彼の筆の「遥かなる憶い出の我等が母校」は母校食堂を飾る)寄付の諸兄の志(スモン病なのによく来られた)。

茅ヶ崎の佐野、昔変らずの童眼のトンボ眼鏡(氏の令聞は故秀才伊藤一郎氏の令妹)是で関東勢欠員なし。後者の二氏の事をホテルに頼み、ホテルのマイクロで笹ヶ峰牧場へ。途中の新緑の美しさ。一同益々仙人的になる。景色のよい所へ来ては車を止めて満喫。可憐な水芭蕉。

ホテルに帰るといた、いた。遙々北九州の齋藤凱雄(今は下船、併しタイプは依然堂々ニコニコの名船長、大阪からの明間(昔ながらの小柄で眼はギョロリ)お子様から借りたカメラの成績如何)が迎える。殆んどの君が、この遠来の珍客に卒業以来の再会を喜ぶ。

急の部屋割りで幹事汗だくを察して各室へ分散。つる話、新築の浴場。話題は夕食会で更に花が

呑き、時限が来て傍のロビーで又一杯だ。

二日目はゆつくり出発。戸隠越えのマイクロに繰り込む。途中又水芭蕉を羨しみ、中社下車。あの何百段の階段を杖の真保、少し不自由の明間の諸兄まで昇って参拜。その日の昼食そばは矢張り本物お代わりする人もいて心強い。

最終コースは善光寺。どうか、諸条件を推して参詣に来たこの善男共に慈光を垂れ給え。解散。

参加会員に記念写真を送る。その他の諸兄に三三一会各々の近況報告を送ったのが、一ヶ月後なのにも拘らず、又次回を計画せよの命に幹事恐縮。

諸兄、会える中に又会いましょう。(文中敬称略)

三六会 会報

去る三月十二日(土) 上大川前通り六、のとや旅館に於て昭和五十二年度三六会を開催、参会者以下のとおり、相田和夫、上野 益、金井宣夫、加賀田一四夫、風間忠雄、君 健夫、倉田 亨、田巻良一、田中 武、高所太郎、西村 清一郎、樋口 均、藤田九三郎、丸岡寛、前田節雄、宮尾正雄、宮島美代吉、山田敏雄、山田利平次、吉川恒吉

松戸市からは相田和夫氏がはせ、参じ大部分の新潟勢は五十年振りの再会、この外に出席通知のあったのが、安藤公平、岡田信雄、伴修の諸氏、岡田氏は関空直前使用の方をよこされ、急用の為欠席との連絡があったが、安藤、伴の両氏はしばらく待ったが、姿が見えず、ややおくれて開会、伴氏はあとでお聞きした処、日を間違えた由、安藤氏は不明。記念撮影、宮尾代表幹事の挨拶の後、開宴、大部分は毎年の出席者であったが、今回は関東から相田氏が見えた為中心は相田氏であった。

紀ぶりというへだたりの為、名前と顔が一致するまでは、かなりの時間がかかったが、五十年振りの再会によろこび合い、なつかしきで話がはずんだ。たまたま上京中だった樋口がとび入りさせていただき、楽しい一時をすごし、帰宅の都合で八時頃妻たけなわにして辞去した。

新潟の冬も去り、どうやら暖くならはじめた三月は二十六日(土)市内大畑町「湖畔」に於て開催、東京から帰新の木村豊雄君を加えて、相変らずの初老青年二十二名、そろそろ一線を退き、第二の人生設計に入る時期ながら、飲むほどに益々若返り、そのま、昔の赤線帽子をかぶせても、落第数の老



中学生で通りぞうだ。お互い浮世の浮き沈みをくり返しながらもこの席では茶目助の当時の面ざしが次第に出てくるのだから、同期の会とは不思議なもの。昔も今も万年青年の野沢正一市議会議長や昨年秋の病氣後酒量セーブの白鶴誠一君、久しぶりに出席の黒屋無鑑査、洋画 小飯塚医師、笑顔の変わらぬ本田サマこと白根市朝巻の石高禪師、サッポロビールの味方恭一君……等々。元校長や現音楽教師などという雑色、やがてなつかしの校歌を唱いあげ、東西南北それぞれに夜の闇にぞ別れけり。

当日出席者
阿部尚道 味方恭一、石高信司、池田藤三、白鶴誠一、小飯塚元、小林清一郎、小武内尚三、小林芳輔、桜井輝二、佐藤裕雄、野沢正一、木村豊雄、山崎寿吉、涌井十

今年の新現も仲々の好成绩で、インターハイ出場権を得たクラブはフュージング(9)陸上(8)空手(7)(全国大会)バスケット(15)の各部合計約40名にものぼっている。これから行われるインターハイ、各種目での後輩達の活躍に期待し、物心両面の御声援をぜひお願いいたします。

七月一日は本校創立記念日である。かねてから、本校沿革史を迎える写真の記録集の作成を望む声が強かったが、本年度着任された藤田久喜校長のアイデアと御支援で、一部その作成を始め、現在母校の廊下(約五十枚)を展示、職員、生徒に歓迎されている。

写真に見る 本校沿革史 母校廊下に展示中

追記 昭和五十七年になると昭和七年卒業後、五十年自同期諸君へ会合を開きたく、あとから五年、長生きしたのみです。

一郎、皆川登良夫、皆川竹次郎、高橋新一、佐藤一義、藤巻行也、吉田一郎

写真の収集と保管につとめ、より充実した内容にしたいものと考えている。

会員諸氏も折りをみて母校を訪ね目とおして過去をふりかえつていただければ幸いです。なお、手持の記録写真で本校資料室に御寄贈いただけるものがあればぜひとも提供下さいますようお願い申し上げます。



写真はホテル前でのもの。

同期から 四人の医学部教授誕生

55回 金子隆 弘

開業医・蒲原神社宮司

54・55期生から小島健一君並に岡田敏夫君が、医学部教授として誕生した。武藤輝一君は、新潟大学外科学教室の教授に就任後も、何年も経過しておる。

昨年、新潟医療短大衛生技術学科の教授に小島健一君が就任された。この人は中学時代からの学究型の秀才であり、多数の大学から教授の聲がかかっていった人であり、専門は内科血液学である。

次に今年になって富山医科薬科大学小児科学教室の教授として岡田敏夫君が誕生した。岡田君は恩師小林教授に仕えること二十年恩師の小児腎臓病のあとを継いで小児の尿の研究や腎臓を主に研究しているが、数多い教室内から唯一一人恩師に抜擢されて小林教授のお供をして富山に赴任したものである。

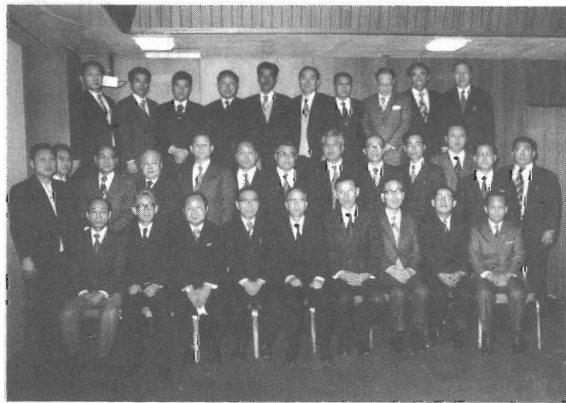
ちなみに小林教授は副学長となられたのである。

この外、古谷野速男君もすでに数年前、秋田大学の生理学教室の主任教授として新潟を去られている。私の知る限り同期から以上四名の医学部教授が誕生しているが、医学部教授とは学問だけでは決して教授になれるポストである。直接人命にたづさわら、又その人の一言で学説が出来たり、世論が

の中には数多くの校長先生や実業家など、又はコソコソと一人で頑張っている人も多い。又、早稲草君等の政治家もいるが、だがしかし前述の如き人間の生命に直接たづさわら、又これらの人を教育する医学部教授は並大抵のポストではないのである。ちなみに私達同期の前後をみるに、一期中から四名の医学部教授が出ていないと思っただが。

本年三月十二日に同期会主催で小島、岡田両教授祝賀会を盛大に行なった。医学に関係ない人達も多勢集つてくれた。この人達の前途に大いなる期待をもっているのである。

願わくばこの御両人を始め、他人の教授も母校の名譽のために、社会のためにも、日本国家のためにも頑張つて貰いたい。



54・55期有志

「苦去りの会」

54回 保倉 修

今年の蒲原祭に、この写真の青陵健児54期55期、「くさりの会」大職を見られた同窓の方も多数おられると思います。

この「くさりの会」について簡単に紹介いたします。同窓会報第16号(48・1・23発行)に、わが期の早稲草市議が恒例新年会とともに「蒲原神社の厄落し」について述べておりますが、この「厄払い会」を本年始めて「くさりの会」と命名したものです。40才の不惑を過ぎてから同期の有志が発起したら賛同者多く、41才の前厄を払って貰おうとやはり同期の金子蒲原神社宮司のところに続々と集まったのが、昭和45年1月15日、これが最初の「厄払い会」でした。翌年は42才の「大厄払い」その後も毎年1月15日11時には蒲原神社に集合するのを恒例とし、

宮司よりお祓いを受け、自己の健康、家内安全、無病息災祈願を行なっており、年によつて、参加者の顔ぶれも変わりますが、毎回20名〜25名の参加があり、今年で8年目を迎えました。殆んど毎年、三



村君が神前での記念写真や、旧交をあたためる懇親会のスナップ写真を撮つてくれますし、本年よりは参加者の寄せ書、署名もして後々まで記念に残すことにしました。今年には卒業以来30周年にもなりまして、この会の名前をつけようということになり、今年の参加者の討議の結果「くさりの会」と名付けられました。「くさり」とは鉄の結束を意味する「鎖」のことであり、連帯、団結、たすけあい、又一つには「苦去り」で人生の苦しみ去るという意味をかね、ひらがなで「くさりの会」としたものです。

尚、この「くさりの会」で蒲原祭に五穀豊稔の大帳一本を寄進し、金子宮司の揮毫で今出来上り、その初写真がこの神社前のこれです。

緑の風が吹きまぎく蒲原祭。旧栗の木川、大通りに翻翻と「くさりの会」の大帳が今年ひるがえりました。この会のために毎年、金子宮司は齋戒沐浴し、精魂をこめて祝詞を書かれます。神前での厳

当日会場の越路会館へ集まる者は、渡辺、土岐の両先生に、生徒側は木村会長を始め、五十嵐治(佐藤弘)、巻口、大関、行田、矢野、福田(満)、清川、狩谷、倉島松井(旧姓長谷川徹)、加藤(高)の僅か十五名でありました。

渡辺先生の新潟大学での適令期の娘さん相手の講義で若返りはするが、自分の年令になると相手は危険を感じない事を嘆く。

土岐先生からはマンモス予備校での講義の模様などのお話のあと宴会に入りました。

福田の昨年末の総選挙では自分一人粋がって飛び込んだが、事、志と違つて自爆した旨の話を始め生徒各自の近況報告で佳境に入りぎややかに懇談いたしました。会場の越路会館は一人頭四千円会費でありましたが、料理、酒とも充分で、飲み切れなかつた酒の分をおそばに替えて出してくれました。あんまり若くはないが女性のサービスマも、きょう日この程度の会費ではなかなかこのような適当な会場が見付からないのではな

玲瓏会

「若い娘から
見放されたり五八回」

58回 加藤 高弘

五十八回卒業生は玲瓏会と称し卒業回数に因んで毎年五月十八日に同級会を行つて来ました。昨年は幹事がサボつて休みましたが今年も大幹事の日青堂の青柳がヨーロッパへ行くのとぶつかり、お鉢が私の所へ回つて来た次第です。

宮部先生が当日になって、急な都合で欠席されたのも残念でしたが矢張りもっと多数の同期生に集まつてもらいたかつたと思ひます。同期の諸君には、毎年五月十八日の夜だけはあけておいて戴くようお願いし、報告とします。

MUZO会 60回卒

月岡温泉 新松館の巻

60回 金山 常吉

横紙破りで有名な六〇回の面々が、恩師中野正巳先生が経営されている新松館をお借りして五月十一日、藤田校長を始め十五人の先生方を、おしいたご大阪東京仙台からもはせ参じた人数四十三総数五十八、むらがる月岡美人と共に一大宴会を開きました。

おかげさまで、会費もまぬがれているので、私が生きていけるのですから、私が生きていけるのは本部に過報しないようにねがいます。

近藤純夫(ロツテ第二事業部) 一昨年より浦和場に移っております。現在是对象物がチョコレート・アイスクリーム・ビスケット類です。チューインガム・ドリ

ン日本 社内管理体制強化のため、休日土曜日が逆に仕事の日となり、公私ともに敵視されています。

丸山君一東大修士・上杉先生に英作を教えてもらったとの事 山田栄一 早大機械

またまたたくさんあるのですがこのへんで、未筆になりましたが今回の事で欠席の会員五十八出席中の会員から十四人の方々から奉加会をいただきました。お陰様で黒字になっています。有難うございました。

翌朝も、お立ち酒が一本つつ付き、又々話が盛り上りました。お骨折りのいた、いた大橋植助先生と幹事小林君、小林智明君、名簿用、連絡用にと用紙を提供してくださった齋木守雄君(国水紙業)に感謝いたします。

近況を寄せて来た内より— 小直出(東大病院第一内科) 先日、さる席で思ひもかけず松浪先生と同席されていた、きました。東京在住の同級生語君とは、時折顔を合せていますが、何しろ予定の立てられない立場ですので、このような催しの度に淋しく思えます。

平田大六(平田大六研究所) 同窓会の名簿には載っていない

昭和二十八年卒業の旧三年三組の例会を去る二月二十六日新潟市内篠田旅館で盛大に開催した。昭和二十七年我々が三年を迎えた際新湯高校は受験対策の試みとして新しい学級編成を実施した。文科理科のみならず、文科系内の数学 unnecessary 受験生用いわば特殊学級を設けたのだが、それが我が三組であった。英語、国語はともかくとしても、理数はまるでダメというより全くヤル気のない強者ばかり。然して当時の物理担当の

きたここに集える三組一同はもって幸わせ者というべきか。 当日の出席者は— 遠藤久雄先生、阿部敏弘、阿部二郎、石本賢治、伊藤登、近野茂、篠田正志、高山誠、田辺竜治、中村英一、長谷川敏、山下進、松原攻、丸山鉄彦、柳下正衛、山内幹夫、山田義房

71回

〇点の精鋭集う

先生曰く、「お前ら零点だけはどるな、いくらなんでも零にはゲタのはかせ様がない」。その責任者に指名された遠藤久雄先生のご苦労いかばかりか、人の親となった今にしてわかることではある。そんな訳で特殊学級なりに結束は固く、また、幹事の「例会好き」もあり、年に二度開催されている始末だ。旅館の若旦那である篠田君に赤字会計を迫ってはワイワイと騒いで旧交をあためてはいる。顔を合

昭和五十二年 教職員移動

昭和52年度本校の祭典青陵祭が、朝のうち心配された空模様を晴天にぬりかえた本校グラウンドでくりひろげられた。

伝統を守って 青陵祭盛大に

昭和51年度青山同窓会費納入者追加分 (1月~3月納入のもの)

Table with 2 columns: Name, Position. Includes 校長 藤田久喜, 教諭 内山 巖, etc.

昭和52年度本校の祭典青陵祭が、朝のうち心配された空模様を晴天にぬりかえた本校グラウンドでくりひろげられた。

Table with 2 columns: Name, Amount. Lists names and their contribution amounts for the 51st anniversary.

Table with 2 columns: Name, Amount. Continuation of the list of names and contribution amounts.